聚珎畫帖

下

22

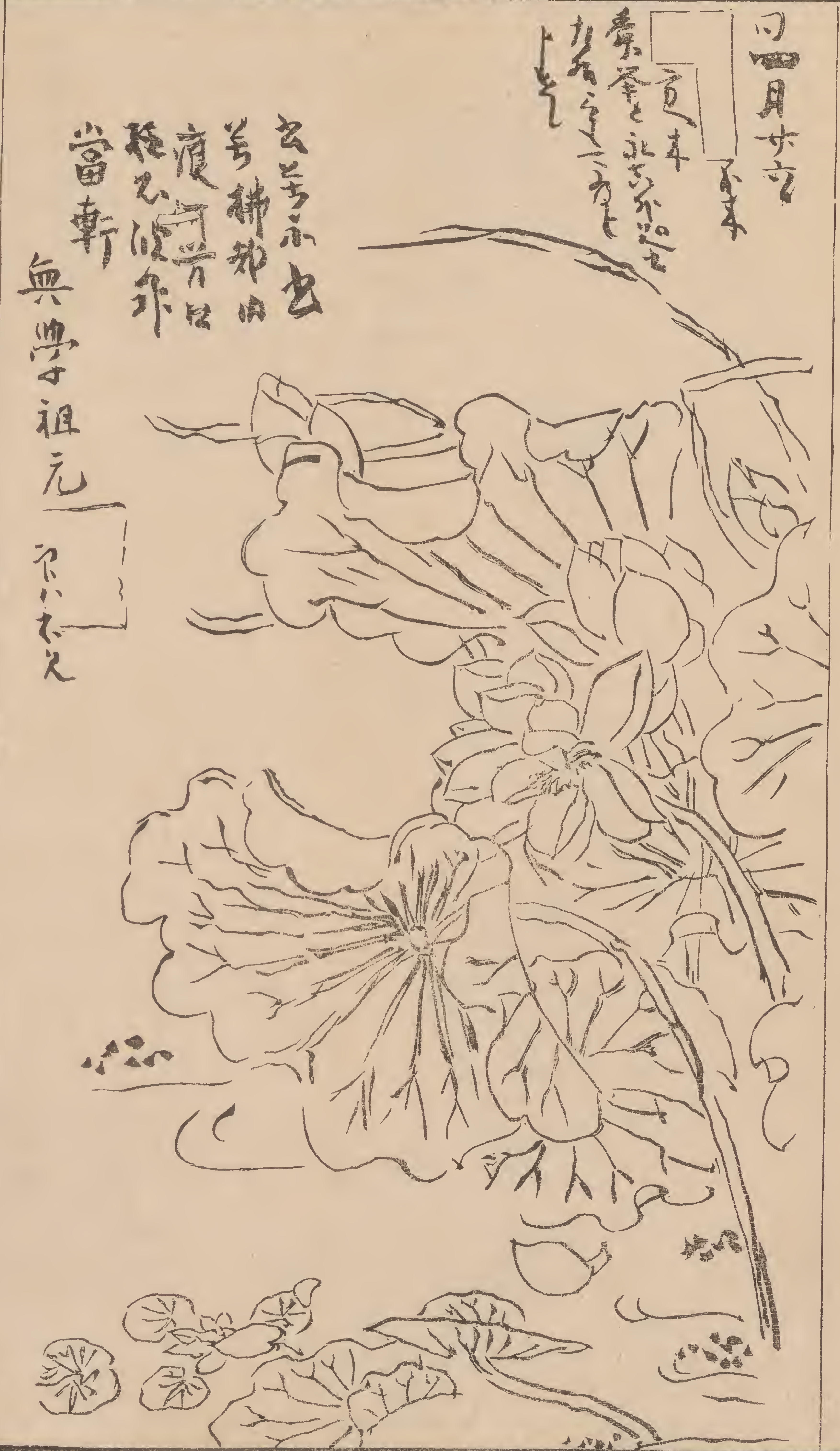
聚珍畫帖下巻目次

秋景鬪雀圖
蓮花圖
羅漢圖一
二
三
甜瓜圖
韋駄天像
灑水大士像
風神像
白鷺圖
孔子觀款器圖
鷹圖一
二
三
四
喜雨亭圖
竹摟圖
梅花白頭翁圖

緑竹書屋珍藏

Washington, D. C.

天神影
柳斑鳩圖
柳壽帯鳥圖
春苑遊禽圖
牡丹圖
木芙蓉子母犬圖
地獄變相圖
壽老人像
羊圖
賢巳圖
寒山圖
渡海布袋圖
文珠像
薑翡翠圖
鷄圖
阿彌陀像
秋叢圖


無學祖元
當軒

寛文八八月

寛文四年十二月

翡翠釵敲蓮葉風
更於那覇人家画
丁卯季秀日
貴渓愚極

癸酉中秋寫於赤葵軒
朱蔚

孔子觀於魯桓公之廟有欹器焉問於守廟者曰此謂何器對曰此蓋為宥座之器孔子曰吾聞宥座之器則虛則欹中則正滿則覆明君以為至誠故常置之於座側顧謂弟子曰試注水焉乃覆虛則欹夫子喟然滿而不覆者哉子路進曰敢問持滿有道乎子曰聰明睿智守之以愚功被天下守之以讓此所謂損之又損之之道也

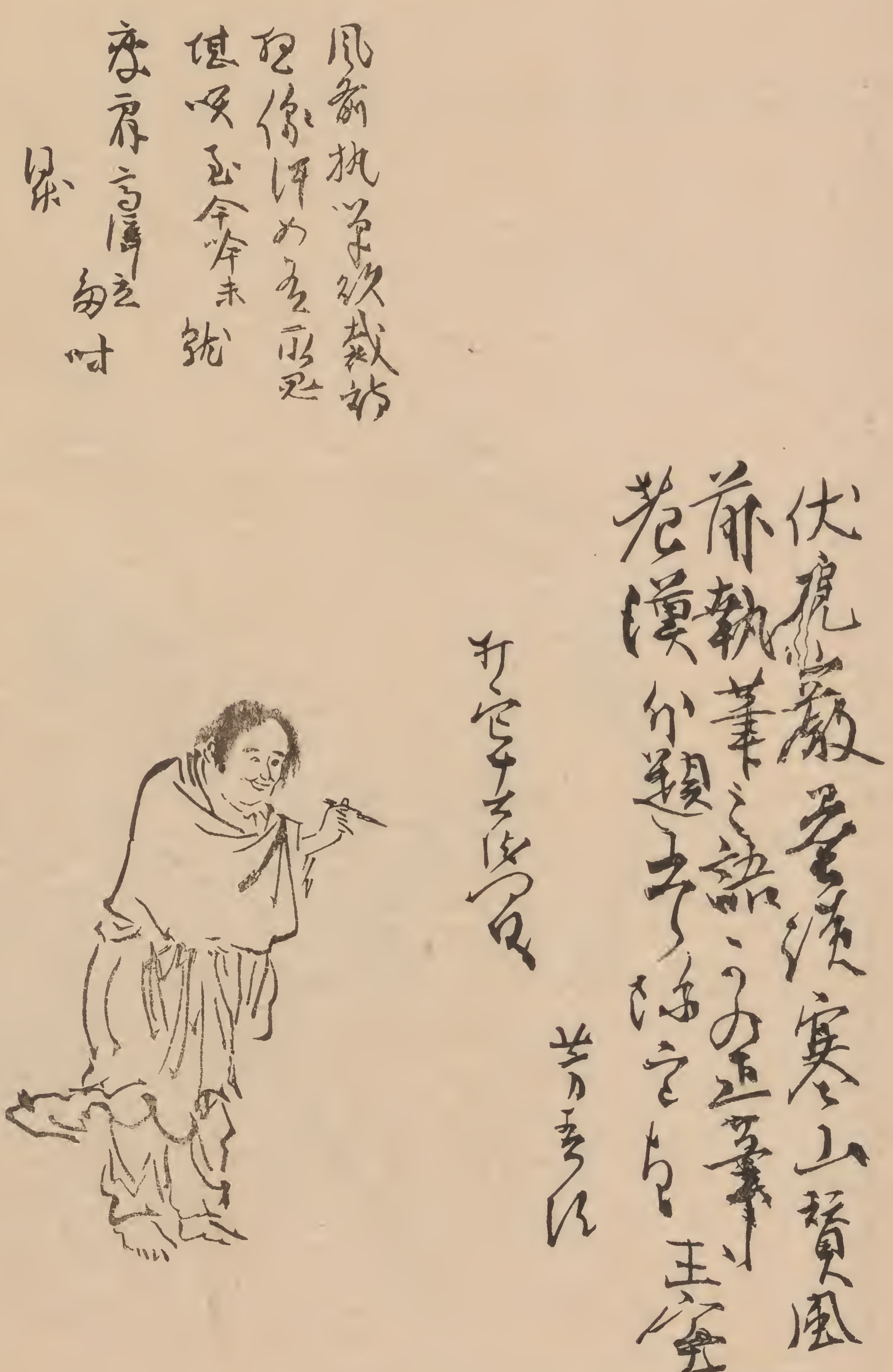
孔子觀於魯桓公之廟有欹器焉孔子問於守廟者曰此為何器對曰此蓋為宥坐之器孔子曰吾聞宥坐之器虛則欹中則正滿則覆孔子顧謂弟子曰注水焉弟子挹水而注之中而正滿而覆虛而欹孔子喟然而歎曰吁惡有滿而不覆者哉子路曰敢問持滿有道乎孔子曰聰明聖智守之以愚功被天下守之以讓勇力撫世守之以怯富有四海守之以謙此所謂挹而損之之道也

聚珍畫帖　卷下　芝山館藏

喜雨亭

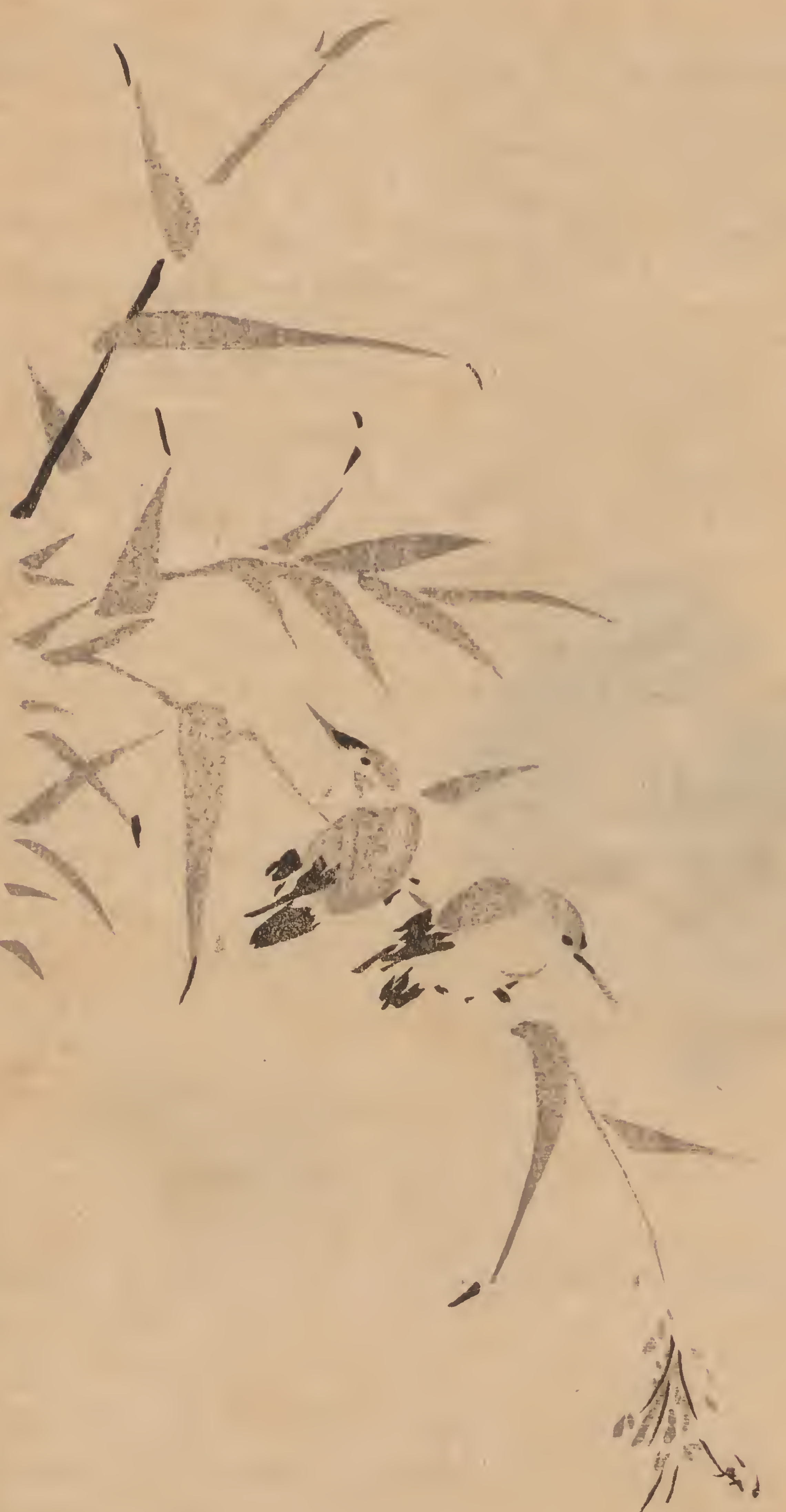
林良

寛文七
九月廿三
賢巳圖
拂雲屋



柯士璜

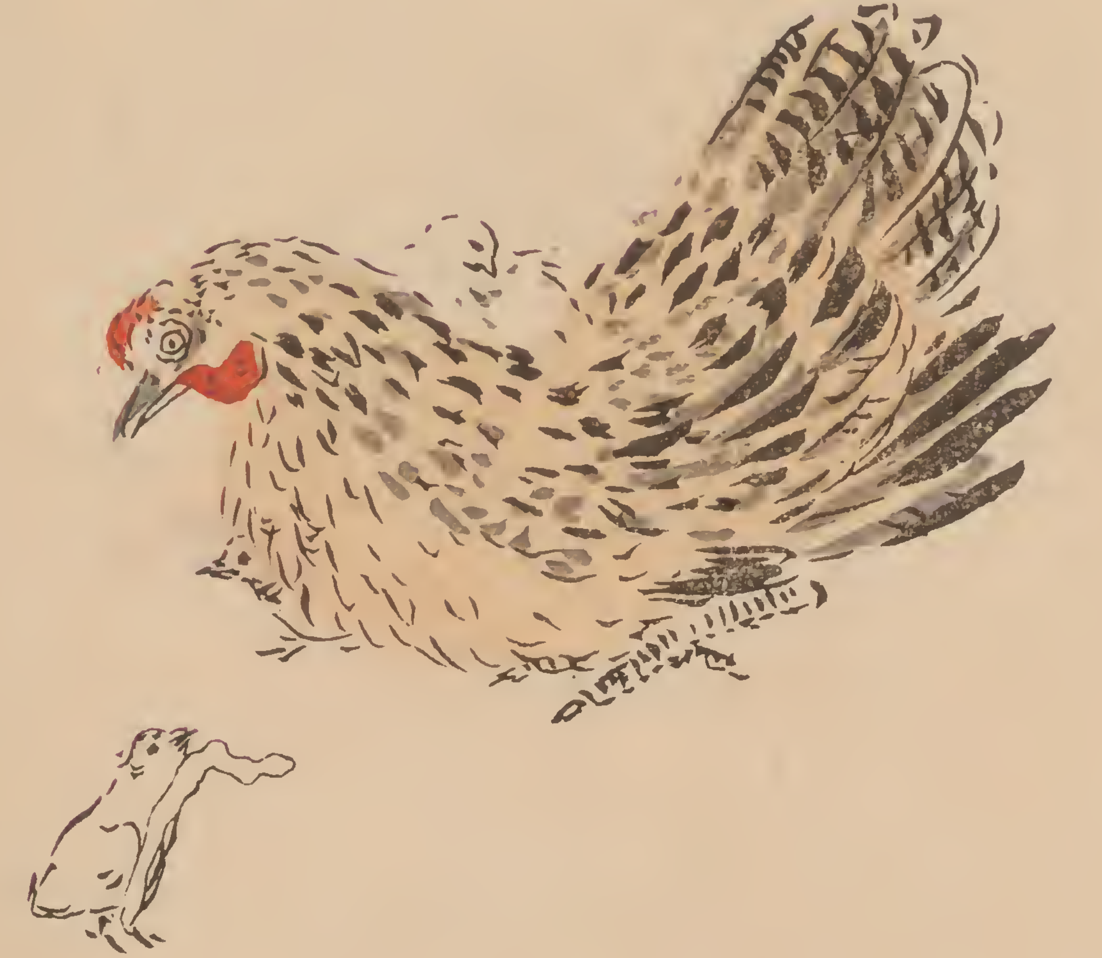
日十一月七日
元年
うつしき之牧等あ模之



此四畫不倣吟搭案要皆墨本
然也捨着急收攝一爲偏筆
咸淳三年　牧溪自留手用

日月十日
十一月　不し
うつ為
外之まし

芝山館藏



同七月廿一日

あかねさしこ意匠さしはえしまのさかへ
ありし世の人は聖かれ墨おもはしめてそ柱と
なれるとききし意をさせしは中かに伝ること
はるく人のみちはさらに彩る絵川の志をえ
きもこれ残し人をところにあまて海やる
まぬひとかり伝言は海ことのすら意える
あぬ其新熱まにはや古熱の形ある梅しにはあり
地芝山乃ぬしはいそのかこまり紀をしるす

ことゆゑよしなきをしらはつまのよれるみやこに
必ずれ筆のりの物を画もちとの傳ふらふ
たるべしふさらにまたえん物をはかりなん者
物のへ見ゆし本義理のふかきかあたりを
うしなう絶に家門してさけりを思ますひ
はかりまとし筆ても世に流くくらうまいと
なそあ筆をかくこれ法印こすみ志のふ
よく人をくて志そそ紀年教もする人こ

かくひとしくかきひはしるに有るに人のためとな
為くしれそうとみしかはえらろわざう
乃てにそやうかさるまて来いとよめやこの小歳
雖こさうしくれしあ筆けるいふ来や文字
のかきもよき筆聖といふ物し人てこは傳つま
寫真よたん人を理しそかし書を帝門この
ことく行ハ物くこの志ぞく筆をはしるらこ
必しなつきとあることもしてよくゆくるの

そはいし極九ことあさつましてよくよも
志るされはあらしとおもおもひなしこ
乃まゝの筆北志のあと残みなみな道も
こそ草の為にかゝとゝみしたくことわすり
朽かりしとおもひし筆ならぬ風ことわすれ
何ならにとふりかきわするまじと侍るを
し此ことはさも書のよりて筆跡あおもひつの
殊あ理くしみとやよ此ひと崇よくし里

かゝる此わするゝこの花と海へさところて
いよしすれこゝろつも残りらひしかの花
へは雲とわするとまゝとも杖まひあ
いもく神くいと何ゝ此しに花ろの為の
ことはよ殊ひ志ら此道とも己こ此日とよ他
ありひとこ東京くの宮あまと荒山乃此
こし此あとめいよひかくておもふにとかま
つ帝かゝる小さき筆享和の春ことせ志も

はさこす傷めよの

探幽齋之於畫也逸品卓然世人皆知卓然之美而不知美之所以成卓然也一日芝山君懷画帖一編來示余曰此探幽齋之筆翁在世時人或請畫鑒定者翁輒手自照寫旁記年月及画者姓名與其真贋無論和華縮圖以為軸久之積軸及五車我先考亦耽丹青追翁遺芳賞不容口後幸得此圖珍比拱壁每欲命剞劂氏謀不朽不肖大恐飽蠹魚之腹以墜先考之志頃者急上木此帖即是余閱之未終拊髀嘆曰有是也哉名不虛傳也美之所以成

卓然者其在此歟古人云埋筆成塚研銕如泥胸貯五嶽目無全牛苟不有如是之精力惡成如是之絶妙不寧唯是至若論政於廊廟掉舌于藝苑文壇鬪毫武場撃劍及一伎一藝有能名者要唯精力是視耳嗟乎以之易地引致之遠豈丹青云乎哉使世之云為者聞是言未必不鍼惰而求高之病而君得繼志之一端翁生顔於千歳可謂偉擧矣君聞余辭請即録之因書贈之

壬戌小春

蘭痩

芝山館藏板

聚珎畫帖　後輯　嗣刻

探幽齋　縮圖卷本　近刻

西洋訓蒙圖彙　十五册　近刻

尚古雜圖　近刻

此書ハ上古より我邦に傳る所の和漢の器を圖して部類を
分ちて書とす　如或ハ玉石銅鉄角陶木竹髹漆の器
物の[illegible]翁甲冑鏡の類猶[illegible]もとめ得る所を以て板[illegible]
刊と云爾

享和三癸亥歳孟春發行

皇都　伏見屋藤右衛門

勝村治右衛門

浪花　河内屋太助

尾陽　永樂屋東四郎

若林清兵衛

製本所　東武　蔦屋重三郎